

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立富山高等学校・教諭・藤田奈緒子
- 2 研修期間 令和4年9月29日(木)～令和4年10月1日(土) 3日間
- 3 調査研究課題 普通科系高校における効果的なキャリア教育について
- 4 研修機関等 おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会、津軽藩ねぷた村、一般社団法人関西経済同友会、関西キャリア教育支援協議会、大阪府教育庁・大阪市教育局委員会、大阪科学技術館、あべのハルカス

5 研修の概要

(1) おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会

キッズハローワークHPより <https://www.kids-hellowork.com/>

当会実行委員長の大西晶子さまより、当会の概要をお話いただいた。当会では、地元で働く大人と子どもたちをつなぐ活動として「おしごと体験広場キッズハローワーク」を実施されていた。職業体験をツールとした地域コミュニケーション事業ということであったが、東京などにあるキッズハローワークが企業のアルバイトがマニュアルに従って子どもたちに職業体験をさせているのとは対照的に、その地域で本当に働いている大人によって、直接お仕事を教えてもらうというものである。そこでは職業観の醸成とその地域を「知る」「好きになる」ことによる地域活性を目指しているとのことだった。大西さんの問題意識の一つに「本当に地方都市には何も無いのか？」という問いがあり、その問いは富山県に暮らす我々にとっても大いに共感できる問いであった。すなわち、若者の県外流失について、働く場所として故郷が選ばれないことについて、地方都市を元気にしたいという大人たちの思いについて、大きく共感することができ、地方で働く大人として目の前の生徒に何が伝えられるだろうかということ自問した。



私の勤務校においても、ほとんどの生徒が県外の大学へ進学し、多くは富山県には戻ってこない。また、現状では、本校の生徒は高校生の間に、富山県での働く場所についてあまり知る機会のないまま、大学進学を遂げている。高校生の間の進路学習の一貫として、富山県で働く大人に触れる機会があったらよいのではないかと、という考えを強くした。具体的には学年の行事で、地元産業界から企業人を招いてお話する機会を持つことや、2年次の「公共」の授業において、「都市と地方の格差を考える」や「人口減少時代の日本社会-都市と地方の持続可能な発展とは-」などの単元にて、生徒自身の職業観を醸成しながら、地域のことを知る学習の一貫として授業実践ができるのではないかと、着想を得ることができた。



私の勤務校においても、ほとんどの生徒が県外の大学へ進学し、多くは富山県には戻ってこない。また、現状では、本校の生徒は高校生の間に、富山県での働く場所についてあまり知る機会のないまま、大学進学を遂げている。高校生の間の進路学習の一貫として、富山県で働く大人に触れる機会があったらよいのではないかと、という考えを強くした。具体的には学年の行事で、地元産業界から企業人を招いてお話する機会を持つことや、2年次の「公共」の授業において、「都市と地方の格差を考える」や「人口減少時代の日本社会-都市と地方の持続可能な発展とは-」などの単元にて、生徒自身の職業観を醸成しながら、地域のことを知る学習の一貫として授業実践ができるのではないかと、着想を得ることができた。



(2) 津軽藩ねぷた村

迫力のあるねぷたの展示物、外国人観光客には英語での説明が当たり前に行われていた。活気のある地方都市の一面を見ることができた。

(3)

① 一般社団法人関西経済同友会

関西経済同友会では、20を超える委員会を設置し、幅広いジャンルの取り組みをされており、その中でも教育問題を取り扱っている「教育問題委員会」の『「学校任せ」から「社会全体で共創する」

初等教育への転換』のご報告を拝聴した。そこでの提言では、子どもたちの「多様な経験を通じた能力開発の場」の提供について、多忙化の進む学校現場だけで抱え込むのではなく、外部への委託や企業・地域社会、デジタルの活用による共有・連携などの提案がなされた。教育を学校だけではなく、社会全体が担うべきことであるとの意識が根底に流れており、ありがたいという思いとともに、教育界と産業界、行政が協力して行うべきだと思った。今回、視察で一緒した富山県の経済同友会の方々も、教育に対して「何かしたい」「教育とはどうあるべきか」「教育は国作り」など、熱い思いを持っておられる方ばかりで、改めて自分が日々向き合っている仕事の尊さを実感する機会となった。

② 関西キャリア教育支援協議会

同会では、小・中・高等学校からの依頼に応じて、教育現場への社会人講師の派遣、職場見学、職場体験、工場見学の受け入れ施設の紹介などを行っており、その運営の実務的な難しさとコロナ禍での「体験」の難しさなど、直面しておられる問題についてお話いただいた。私の勤務校において、1学年次に「キャリアガイダンス」を実施して、卒業生から職業人を15名ほど招いて講義・座談会を行っているが、講師の方をそろえるのにかなりの苦勞をしている。職業が偏らないように調整したり、職員の個人的なツテを頼りに依頼したりすることもあるが、同会のように、斡旋してもらえらる組織があれば、スムーズに企画・実施ができるのではないかと思った。具体的には、本校同窓会やPTAと連携をとって、その豊富な人材をストックしてもらうことはできないかと考える。

③ 大阪府教育庁・大阪市教育委員会、

大阪府教育庁では、2025日本博覧会協会教育プログラムを活用した、SDGsジュニアプロジェクトとして小・中学校で行っている実践を紹介していただいた。行政主導の持ち込みのプロジェクトであるが、「全てのいのちが輝くためのアイデア」について調べるといふ実践では、実施校において、実施後に児童の自己肯定感が上昇するなどの効果があったということだった。地域の学校で横並びのプロジェクトをするのは、面白い試みであると思った。大阪万博に向けての気運醸成とのことであつたが、子ども達が元気になるということコンセプトに行われている取り組みであつた。全国学力テストの結果や虐待や貧困の問題について大阪府の子ども達を取り巻く環境は厳しいものだが、子どもたちの自己肯定感と将来展望感を育てることを目的とされていた。地域の実情に応じた、行政主導の取り組み例として、大変参考になった。



④ 大阪科学技術館、あべのハルカス

大阪科学技術館は地元企業の協賛のもと各企業がブースを出店する形式となつていたが、幅広い分野の企業が集まつており、興味深く見学することができた。

(4) さいごに

今回の視察は、富山県経済同友会の教育問題委員会から8名、小・中・高・特別支援から教諭5名の13名で行つた。経済同友会の方々は、どの方からも教育問題への高い関心と暖かい励ましのお声をいただいた。教諭の方々からは、日々、違う現場ではあるものの、直面している問題の本質は同じであること、その解決に向けてできることなど、建設的な意見交換が出来、非常に励まされた。日々の教育現場での実践において、つい目の前のことしか見えておらず、視野が狭くなつていたことを反省した。また、社会全体の問題として教育を捉えること、我々の仕事の結果として社会を形成していくこと等を念頭において、目の前の生徒にあたりたいとの思いを強くした。今回の視察で得た示唆を、自分の教育活動及び学校現場へ還元していきたい。

最後に、このような大変貴重な機会を与えてくださった富山経済同友会の皆様、富山県教育委員会をはじめとするすべての方々へ感謝申し上げます。

